

国立高雄大学

(台湾 National University of Kaohsiung)

2006年4月20日に、国立高雄大学の黄英忠学長と傳昭銘応用物理系主任教授を迎え、研究者および教職員の交流、共同研究を目的として交流協定が締結されました。

国立高雄大学は、台湾南部地区の文化生活水準の向上と、南部地区の工業、科学技術発展に寄与するために、2000年に台湾第二の都市の高雄に新設された国立大学です。教員数約300名、学生数は学部生が約4,400人、大学院生が約400人で、現在、大学院は年次進行にて拡充中です。主な部局は、工学部(電気、情報科学、物質、建築環境、都市建築) 理工学部(応用数学、応用化学、生命科学、応用物理) 人間社会科学部、法律学部、経営学部、およびバイオテクノロジー研究所、経済マネジメント研究所で、企業向けナノテクノロジーのコンサルタントや、光エレクトロニクス、バイオ、情報通信等の研究で知られる総合大学です。

工学研究院の竹村助教授が、2005年6月に国立高雄大学において共同研究の打合せおよび特別講義を行ったことを契機に交流が始まりました。平成17年9月に開催さ



れた「第2回先端磁性技術に関する日本台湾合同ワークショップ」への参加のため来日した国立高雄大学の学長、工学部長から横浜国立大学と大学間協定を結びたいとの意向を確認しました。

すでに、磁気医療応用に関する共同研究が開始されており、この共同研究を中心に主に研究者(必要に応じて大学院生)の交流を予定しています。

アジア・アフリカ学術基盤形成事業

「津波・高潮による沿岸災害防止のための社会基盤の整備」

(日本学術振興会よりの受託事業)の紹介

スマトラ島沖地震による津波やカトリナ台風による高潮は、沿岸域の住民に大きな被害をもたらしました。この

ような大被害を未然に防ぐための取り組みとして、アジア・アフリカ地域に津波・高潮防災の研究拠点の構築が



Tsunami & Storm Surge Seminar in Phuket, in Thailand, 2005